

教育警察常任委員会

所管事項調査

1 令和5年の犯罪情勢（10月末現在暫定値）について

資料1 令和5年の犯罪情勢 1頁

2 特殊詐欺対策について

資料2 特殊詐欺対策 2頁

3 交通安全対策について

資料3 交通安全対策 8頁

令和5年12月12日
警察本部

令和5年の犯罪情勢（10月末現在暫定値）

1 刑法犯

刑法犯認知件数は8,187件で、前年同期と比べ30.3%の増加となっています。

窃盗犯の認知件数は5,735件で刑法犯の70.1%を占め、前年同期と比べ28.7%の増加となっています。

	認知件数(件)	検挙件数(件)	検挙率(%)	検挙人員(人)
刑法犯	8,187(1,902)	2,923(502)	35.7(-2.8P)	1,715(288)
窃盗犯	5,735(1,280)	1,836(305)	32.0(-2.4P)	893(140)

※ 表中括弧内の数値は、前年同期比の増減値(以下同じ。)

2 重要犯罪・重要窃盗犯

重要犯罪の認知件数の内訳は、殺人3件(前年同期比-8件)、強盗15件(同+5件)、放火7件(同+2件)、不同意性交等(改正前の強制性交等を含む。)21件(同+2件)、不同意わいせつ(改正前の強制わいせつを含む。)48件(同+12件)、略取・誘拐及び人身売買2件(同-1件)となっています。

重要窃盗犯の認知件数の内訳は、侵入窃盗970件(前年同期比+383件)、自動車盗99件(同+21件)、すり3件(同+2件)、ひったくり5件(同+2件)となっています。

	認知件数(件)	検挙件数(件)	検挙率(%)	検挙人員(人)
重要犯罪	96(12)	66(-8)	68.8(-19.3P)	58(-4)
重要窃盗犯	1,077(408)	385(91)	35.7(-8.2P)	62(-7)

3 特殊詐欺

前年同期と比べ、認知件数は約2.2倍に、被害額は約1.9倍になっています。

手口別では、架空料金請求詐欺の認知件数が121件(前年同期比+75件)と全体の5割を占めています。

	認知件数(件)	被害額(万円)	検挙件数(件)	検挙人員(人)
特殊詐欺	231(128)	60,150(27,790)	38(13)	14(4)

4 暴力団犯罪

主な検挙罪種は、刑法犯が窃盗・傷害(各8人)、詐欺(6人)、特別法犯が覚醒剤取締法違反(12人)、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律違反(3人)、大麻取締法違反(2人)、暴力団排除条例違反(2人)となっています。

	検挙人員(人)	うち刑法犯(人)	うち特別法犯(人)
暴力団犯罪	55(-16)	34(-19)	21(3)

5 薬物事犯

検挙人員の年代別は、覚醒剤取締法違反の最多が40歳代(16人)、大麻取締法違反の最多が20歳代(11人)となっています。

	検挙件数(件)	検挙人員(人)
覚醒剤取締法違反	72(-1)	50(13)
大麻取締法違反	35(-1)	25(7)

6 来日外国人犯罪

主な検挙罪種は、刑法犯が窃盗(84件・42人)、特別法犯が出入国管理及び難民認定法違反(31件・19人)となっています。

来日外国人犯罪	検挙件数(件)	うち刑法犯(件)	うち特別法犯(件)
	193(82)	136(72)	57(10)
来日外国人犯罪	検挙人員(人)	うち刑法犯(人)	うち特別法犯(人)
	121(37)	86(35)	35(2)

特殊詐欺対策

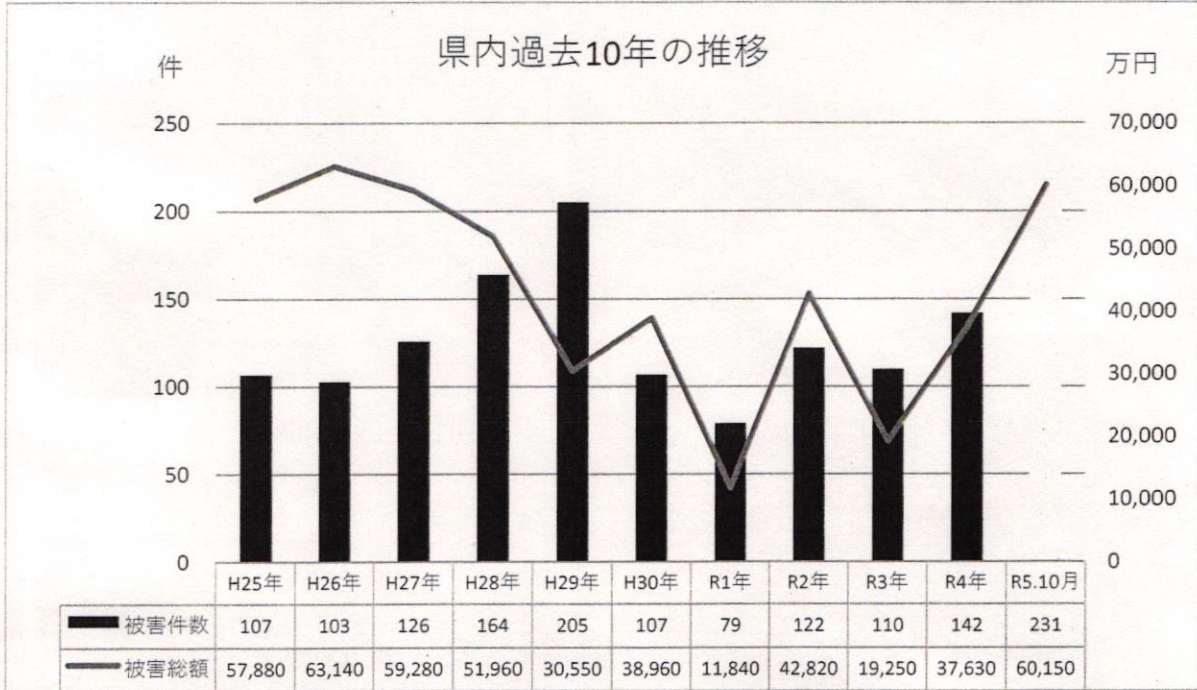
1 情勢及び分析

(1) 県内の情勢

○ 過去10年（平成25年～令和4年）の推移

被害件数は、平成26年から平成29年にかけて右肩上がりに増加する一方で、被害額は、右肩下がりに減少しました。

平成30年以降は、被害件数、被害額ともに増減を繰り返していましたが、令和4年からは増加しています。



○ 本年の情勢

本年10月末現在の被害件数は231件（前年同期比+128件）であり、被害額は約6億1,500万円（前年同期比+約2億7,790万円）です。

手口別では、架空料金請求詐欺が121件（前年同期比+75件）と多く、その内、いわゆるサポート詐欺が46件（前年同期比+35件）になります。

令和5年10月末の発生状況【三重県】

	被害件数	被害額	前年同期比（増減）	
			被害件数	被害額
オレオレ詐欺	12件	約3,170万円	-3件	約400万円
預貯金詐欺	34件	約5,380万円	20件	約2,370万円
架空料金請求詐欺	121件	約3億2,720万円	75件	約1億3,990万円
還付金詐欺	47件	約5,560万円	31件	約4,270万円
融資保証金詐欺	4件	約320万円	1件	約220万円
金融商品詐欺	2件	約7,360万円	2件	約7,360万円
ギャンブル詐欺	0件	0円	0件	0円
交際あっせん詐欺	1件	約70万円	0件	約50万円
その他の特殊詐欺	2件	約40万円	2件	約40万円
キャッシュカード詐欺盗	8件	約970万円	0件	約470万円
『特殊詐欺』合計	231件	約6億0,150万円	128件	約2億7,790万円

【被害者の年齢層、性別】

	認知 件数	性別		発生 割合
		男	女	
10代	1件	1件	0件	0.4%
20代	9件	5件	4件	3.9%
30代	11件	7件	4件	4.8%
40代	15件	11件	4件	6.5%
50代	16件	12件	4件	6.9%
60代前半	31件	12件	19件	13.4%
60代後半	51件	18件	33件	22.1%
70代	50件	21件	29件	21.6%
80代	43件	10件	33件	18.6%
90代	4件	0件	4件	1.7%
100歳以上	0件	0件	0件	0.0%
合計	231件	97件	134件	-
65歳以上	148件	49件	99件	64.1%
平均年齢		65.8 歳		

【高齢者（65歳以上）の類型別割合】

	県内(R5.10月末)	全国(R5.9月末)
	65歳以上 の割合	65歳以上 の割合
オレオレ	100.0%	95.9%
預貯金	100.0%	98.9%
架空料金請求	52.1%	56.4%
融資保証金	0.0%	6.5%
還付金	68.1%	77.2%
金融商品	0.0%	32.6%
ギャンブル	0.0%	25.0%
交際あっせん	0.0%	12.5%
その他	0.0%	29.8%
キャッシュカード詐欺盗	87.5%	99.1%

○ 被害者の約6割が高齢者となっています。

【欺罔手段別】

	電話		郵送等	メール	サイト	FAX	その他	合計
	固定	携帯						
件数	111	30		31	50		9	231
構成比	48.1%	13.0%		13.4%	21.6%		3.9%	100.0%
内訳	オレオレ	12						12
	預貯金	34						34
	架空料金請求	10	28		31	49	3	121
	融資保証金					1	3	4
	還付金	47						47
	金融商品		1				1	2
	ギャンブル							
	交際あっせん						1	1
	その他		1				1	2
キャッシュカード詐欺盗	8							8

○ 欺罔手段別では、自宅固定電話に端を発するものが約5割となっています。

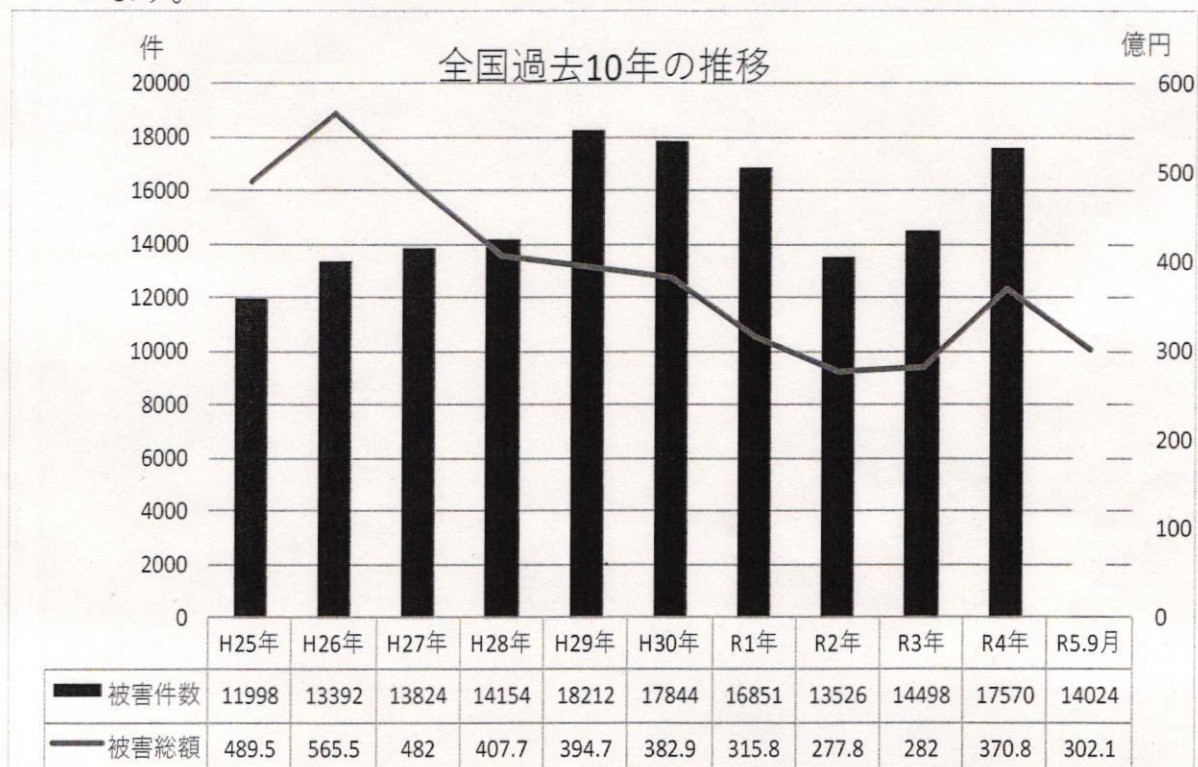
【交付形態別】

	発生件数	振込型	現金手交型	キャッシュカード手交型	現金送付型	電子マネー型	収納代行利用型	キャッシュカード窃取型	その他
オレオレ	12		12						
預貯金	34			34					
架空料金請求	121	19	1		10	91			
還付金	47	47							
融資保証金	4	4							
金融商品	2	2							
ギャンブル	0								
交際あっせん	1				1				
その他	2	2							
キャッシュカード詐欺盗	8							8	
特殊詐欺全体	231	74	13	34	11	91	0	8	0

○ 交付形態別では、電子マネー型での被害が多く、91件（前年同期比+69件）となっています。

(2) 全国の情勢（令和5年9月末現在）

被害件数は14,024件（前年同期比+1,818件）、被害額は約302億1,000万円（前年同期比+約50億円）であり、全国的にも、架空料金請求詐欺が多く発生しています。



令和5年9月末の発生状況【全国】

	被害件数	被害額	前年同期比（増減）	
			被害件数	被害額
オレオレ詐欺	3,006件	約90億9,000万円	167件	約6億3,000万円
預貯金詐欺	2,079件	約26億1,000万円	425件	約6億3,000万円
架空料金請求詐欺	3,755件	約100億3,000万円	1,759件	約30億9,000万円
還付金詐欺	3,010件	約35億3,000万円	252件	約2億6,000万円
融資保証金詐欺	134件	約1億9,000万円	30件	約2,000万円
キャッシュカード詐欺盗	1,722件	約21億6,000万円	556件	約12億4,000万円
その他(金融・ギャンブル・交際・その他)	318件	約26億0,000万円	245件	約21億2,000万円
『特殊詐欺』合計	14,024件	約302億1,000万円	1,818件	約50億0,000万円

2 事例紹介

	手口	欺罔手段	概要
1	架空料金請求詐欺	携帯電話 (メール)	<p>被害者の携帯電話に「料金について確認事項がございます。」とメールが届き、記載の番号に電話をかけるとNTTファイナンスの●●と名乗る男性につながった。</p> <p>●●から、「サイトの未納料金がある。サイト側から料金請求の委託を受けた。支払わないと裁判になり財産が差し押さえられる。」「もしサイトを利用していないのが確認できれば、返金制度で手数料の5%を引いた金額を現金書留で返金する。」と言われ、指示に従い30万円分のギフトカードを購入し、裏面の番号を伝えた。</p> <p>翌日、▲▲保護協会の■を名乗る人物から電話で、「別のサイト利用の未納料金が2件ある。」と言われ、合計50万円を請求されたので、指示に従いギフトカードを購入し、裏面の番号を相手に伝えた。</p> <p>その後も何度か請求されるため不審に思い調べたところ詐欺の被害に遭っていることが分かったもの。</p>
2	架空料金請求詐欺 (サポート詐欺)	パソコン (メール)	<p>被害者がパソコンに届いたメールを開いたところ、画面に「トロイの木馬のウィルスに感染した」等と表示され、急いで電源を切ったが、その日の夕方、電源を入れると、ウィルス感染の表示が出たままで、サポートに関する連絡先が画面に表示されていたため、表示された「0101-20553-36876」に電話した。</p> <p>電話相手は、片言の日本語を話す●●社の関係者を名乗る者で、ウィルスを取り除くには、コンビニで10万円分の電子マネーカードを購入するように指示されたことから、コンビニで10万円分の電子マネーカードを購入した。</p> <p>●●社の関係者を名乗る者に連絡すると、自宅のパソコンに表示された入力欄に、電子マネーのコードを入力するよう指示され、コードを入力したが、入力に誤りがあり、再度、購入してパソコンに入力するよう指示された。</p> <p>さらに10万円分の電子マネーカードを購入し、パソコンにコードを入力するも、再び入力に誤りがあるとされたため不審に思い、詐欺の被害に遭っていることが分かったもの。</p>
3	還付金詐欺	固定電話	<p>被害者方の固定電話に市役所保険課の●●を名乗る者から電話があり「保険料の還付がある。」等と言われ、取扱口座を聞かれたことから、▲▲銀行と答えた。</p> <p>しばらくして、▲▲銀行の■を名乗る者から電話があり、キャッシュカードを持って、近くのコンビニへ行くよう指示された。</p> <p>コンビニで■と通話しながらATMを操作していると店員に「詐欺ではないか」と声を掛けられたが、■から「詐欺ではない。店を変えなさい。」と言われ、違うコンビニで操作を続け、犯人側の口座に振り込み手続きを行い、〇〇万円をだましとられたもの。その後、不安になり、残高照会をし、被害に遭っていることが分かったもの。</p>
4	預貯金詐欺	固定電話 (音声ガイダンス)	<p>被害者の自宅固定電話に、音声ガイダンスで▲▲電力を名乗る電話があり、その後、警視庁の●●を名乗る男に電話がつながり「あなたの口座が犯罪に使用されている」等と言われた。さらに、検察庁の■を名乗る男に電話が代わり「情報漏洩するとあなたも逮捕する。家族や管轄の警察にも言うな」と指示され毎日のように■に電話をかけた。</p> <p>■から「被害者の口座が麻薬取引に使われているためキャッシュカードと通帳を預かりたい。」と言われ、指示されるまま封筒にキャッシュカードと通帳を入れ自宅マンション1階の集合ポストに入れた。</p> <p>しばらくしてポストを確認すると封筒はなくなっており、代わりに押収品目録交付書等が入れていた。</p> <p>その後も■と連絡を取り合っていたが、次第に連絡がつかなくなり心配になった被害者が警察に相談に行ったことで詐欺の被害に遭っていることが分かったもの。</p>

3 被害者心理（なぜ、だまされるのか？）

(1) 過去に実施した被害者アンケートの結果（被害者122人、回答78人）

Q：だまされた理由について

- A：・ 最初から警察や銀行と言われて全く疑わなかった
・ 相手の話をもっともだと感じたから
・ 相手が親切な感じだったから
・ たくさんのことを言われて面倒だったから
・ パニックになった（気が動転した）から

Q：被害に遭う可能性の認識について

A：「被害に遭わないと思っていた」、「どちらかと言えば被害に遭わないと思っていた」との回答が9割

(2) 被害者からの個別聴取の結果

- ・ 犯人から『あなたのしたことは犯罪です』などと言われて恐くなった。
- ・ 電話をしているうちに、トラブルに巻き込まれてしまったと思い、恐くなって「お金を用意する」と言ってしまった。
- ・ 相手が親切に対処方法を提案してくれたりすると、他に頼ることもなく、それを信じてしまった。

(3) その他

高齢の被害者の中には、『お金を払って何とかなるなら自分で解決しよう』と思う人もあり、誰にも相談しないまま、行動に移すことも見受けられます。

4 問題点

- (1) 高齢者が自宅固定電話に架かってきた犯人からの電話に出てしまい、だまされるケースが多くあります。
- (2) 被害に遭う方の多くは『自分は被害に遭わない』との思い込みがうかがえます。
- (3) 独居高齢者が家族と疎遠であるなどの理由により、相談することをためらいます。
- (4) 県民において、未だに特殊詐欺に遭う危険性の認識が薄く、いざ自分のところに電話があると、犯人の言うことを信じてしまいます。

5 今後の対策

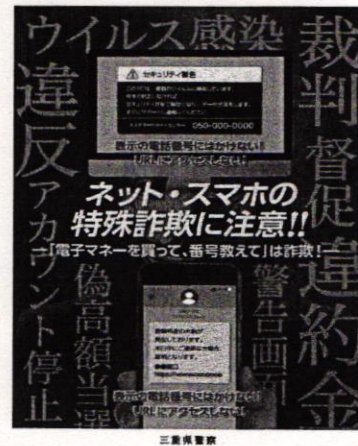
以下の3本柱を被害防止の基本方針として、各種対策を強力に推進していきます。

- (1) 高齢者が犯罪者グループ等からの電話を受けないための対策の推進
 - ・ 自宅固定電話の常時留守番電話設定
 - ・ 自動通話録音警告機の無償貸し出し等、防犯機能付き電話機の普及促進
 - ・ NTT施策であるナンバー・ディスプレイ、ナンバー・リクエストの高齢者等無償化の周知
- (2) 県民の警戒心・抵抗力を向上させるための広報啓発活動の推進
 - ・ 高齢者が特殊詐欺の手口や特徴について正しく認識するための特殊詐欺被害防止寸劇と「防犯機能付き電話機体験用資機材」を活用した講話の実施
 - ・ 増加しているいわゆるサポート詐欺に関する広報の実施
 - ・ だましの電話等を受けた際に親族等に連絡や相談をすることが効果的であることの広報の実施
 - ・ 高齢者だけでなく、子供や孫世代も含めて、家族間で連絡を取り合い、被害防止を図るための広報啓発の実施
- (3) 金融機関、コンビニエンスストア等と連携した水際対策の強化
 - ・ 犯人にお金をだまし取られる寸前の被害者に対する声掛け支援シート等を活用した声掛けなど、水際対策の強化
 - ・ コンビニエンスストアの店員等に対する声掛け訓練の実施
 - ・ 現金送付型被害の未然防止を図るため、宅配事業者に対する顧客への声掛けと警察への積極的な通報依頼

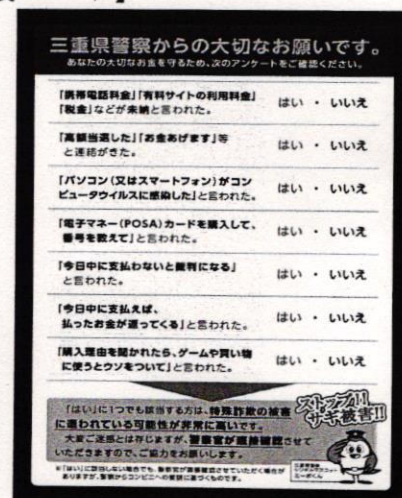
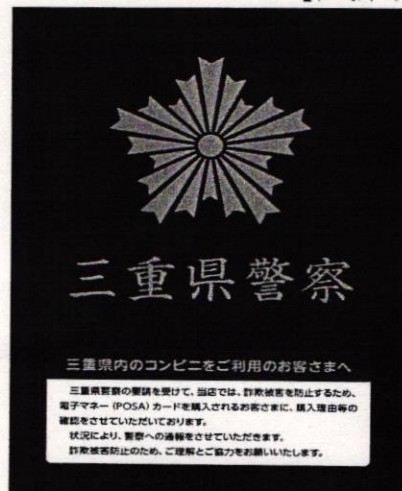
【防犯機能付き電話機の体験状況】



【啓発用ポスター】



【声掛け支援シート】



交通安全対策

1 令和5年中の県内の交通事故情勢（10月末までの暫定値）

区分	令和5年10月末	令和4年10月末	増減	増減率
人身事故件数	2,448件	2,397件	51	2.1%
死亡事故件数	49件	47件	2	4.3%
死傷者数	3,167人	3,043人	124	4.1%
死者数	50人	48人	2	4.2%
負傷者数	3,117人	2,995人	122	4.1%

- 死者数は50人で前年同期と比較して2人増加し、人身事故件数、負傷者数も増加しました。
- 死亡事故の内訳をみると、次のような特徴がみられます。
 - ◇高齢者の死者が5割以上……………26人(52%)前年同期比－4人
 - ◇歩行中及び自転車乗用中の死者が4割……………20人(40%)前年同期比－3人
 - ◇二輪車乗車中の死者が増加……………13人(26%)前年同期比＋8人

2 歩行者保護対策

(1) 横断歩道対策

運転者に、横断歩道等における歩行者優先等について正しく理解し実践してもらう「ACTION38キャンペーン」を推進するとともに、歩行者にも自らの安全を守るための交通行動を促す「横断歩道“ハンドサイン”キャンペーン」を推進しています。



『ACTION38
キャンペーン』
シンボルマーク



『横断歩道
“ハンドサイン”
キャンペーン』
シンボルマーク

(2) 生活道路等対策

○ 悪質性・危険性の高い運転行為への対策

交通街頭活動を推進し、違法行為の未然防止に努めるとともに、横断歩行者妨害違反や通学路など生活道路における移動オービスを活用した速度違反の取締りを始め、飲酒運転、交差点関連違反等の交通事故に直結する悪質性・危険性の高い違反に重点を置いた取締りを推進しています。



【通学路での速度違反取締り】

○ 道路交通環境の整備

生活道路における歩行者等の安全な通行の確保のため、昨年9月に桑名市内に県内初となる「ゾーン30プラス」を整備しました。本年も四日市市内に1か所、菟野町内に1か所の計2か所で整備を行いました。

最高速度30キロの区域規制の実施に併せて、ポストコーン等の物理的デバイスを適切に組み合わせることで車両の低速走行を促し、事故の未然防止・事故発生時の衝撃軽減につなげます。